

Telekom Austria Groupの活動状況について

KDDI総研 主席研究員 恵木 真哲

1 はじめに

EU域内の携帯電話には、2007年7月30日から、「EU Roaming Regulation」に基づき「Eurotariff」が導入されている。Eurotariffはローミング料金のプライスカップ制料金で発信のローミング料金は1分当たり0.49 EUR (79円) ^(換算レート1)、着信は1分当たり0.24 EUR (39円) と上限が定められているが、2007年9月1日までにEU域内の95の携帯電話事業者すべてがこの新ローミング料金を導入している。また、このEurotariffには2008年及び2009年に適用されるローミング料金 ^(脚注) も定められているが、EUは今後、SMSやデータサービスのローミング料金の値下げも検討するとしている。

携帯電話事業者の中には最大で60%までローミング料金を値下げしたところもあるが、この「Eurotariff」の導入により、EU域内の携帯電話事業者間の競争に拍車がかかり、新たな戦略も求められることとなる。EU域内14ヶ国で事業を展開するVodafoneは海外展開とともに、FMC実現に向けて固定通信への参入を予定している。また、France Telecomはインド、ベトナム等のアジアに加えて、既に進出しているアフリカ市場でも3.9億US\$ (426億円) ^(換算レート2) でのTelkom Kenyaの51%株式取得



^(換算レート1) 1EUR=161.1円 (2008年1月4日東京市場TTMレート)

^(脚注) Eurotariffはローミング料金の上限として、発信1分当たりの料金を2008年夏には0.46EUR (74円)、2009年夏には0.43EUR (69円)、また、着信1分当たりの料金を2008年夏には0.22EUR (35円)、2009年夏には0.19EUR (31円) とすることを定めている。因みに、今回のEurotariffで最大の値下げを実施したのはアイルランドの3であり、発信が32.23cents (52円) /分、着信が15.70cents (25円) /分である。

^(換算レート2) 1 US\$=109.28円 (2008年1月4日東京市場TTMレート)

やニジェールでの固定・携帯ライセンス取得等により、その勢力拡大を図っている。

このような主要キャリアのEU域外への海外展開とは異なり、東欧を中心にグループ事業を確実に拡大しているのがオーストリアのTelekom Austria（以下「TA」）である。TAのオーストリア国内の携帯電話事業はmobilkom austriaが運営しているが、2007年9月末のマーケットシェアは40.3%である。EU域内ローミング料金の値下げの影響に加えて、オーストリアの規制機関は、2008年末までのオーストリア国内の携帯電話間の着信料金の値下げを要請しており、オーストリア国内での競争も激しくなると予想されている。

TAはTelekom Austria Group（以下「TAG」）として近隣の東欧諸国を中心に携帯電話事業での海外事業を展開しているが、最近、TAGの東欧地域への海外展開が活発化している。2007年度でみると、2007年7月にはセルビア（GSMライセンス取得は2006年11月）で、2007年9月にはマケドニア（GSMライセンス取得は2007年2月）で携帯事業を開始している。また、2007年10月にはベラルーシで携帯電話事業を展開しているMDC（Mobile Digital Communications）の親会社の株式70%を取得している。

2007年11月14日に発表されたTAGの2007年度3Qの財務諸表及び2008年1月16日に発表された2007年12月のデータを参照しながら、TAGの活動状況について携帯電話事業を中心に紹介することとする。

2 オーストリアの携帯市場

オーストリアの電気通信市場は1998年に自由化され、当初、固定通信のライセンスを所有する事業者は66もあったが、固定音声通信から携帯電話への音声通話の移行等により、現在の事業者の数は38に減少している。2007年9月末のTAの固定音声市場でのマーケットシェアは60.5%であるが、その最大のライバルは固定音声市場で25%のシェアをもつTele2UTAと言われている。

携帯電話市場には4つの事業者が参入しているが、2007年6月末の携帯電話普及率は114.4%である。プリペイドの割合は39%で、W-CDMAの占める割合は17.2%である。マーケットシェアではTAGグループのmobilkom austriaが1位を占めているが、T-Mobile等の競争相手とW-CDMAの加入者獲得で鎬を削っている。2007年6月末の携帯電話市場は図表1の通りである。

■図表1 オーストリアの携帯電話市場

	2Q/2007	1Q/2007	成長率/年	マーケットシェア
mobilkom (W-CDMA)	3,764,000 (560,000)	3,697,300 (490,000)	8.4%	40.13%
T-Mobile (W-CDMA)	3,148,000 (286,000)	3,139,000 (257,000)	1.2%	33.55%
One (W-CDMA)	2,005,000 (310,000)	1,977,930 (260,000)	5.0%	21.37%
3 (W-CDMA)	465,000 (465,000)	440,000 (440,000)	29.5%	4.95%
合計	9,382,000	9,254,230	6.0%	100%

(出典 : Mobile Communications Europe)

オーストリアでは最近、W-CDMA/HSDPAでのモバイルデータサービスが浸透してきている。mobilkom austriaのARPUは2006年2Qの34.90EUR (5622円) に比較すると、2007年2Qは32.00EUR (5155円) に減少しているが、逆にデータARPUは2006年2Qの4.90EUR (789円) から2007年2Qには6.30EUR (1015円) まで上昇している。

オーストリア国内第3位のOneは2007年10月に今後12-18ヶ月以内にブランド名を「Orange」に変更すること表明しており、ブランド変更を機会にシェア拡大の攻勢を仕掛ける可能性もある。今後ともmobilkom austriaにとっては、DT系のT-MobileやFT系のOneとの競争は継続していくものと予想されるが、同社にとってマーケットシェア第1位維持は至上命令である。2007年10月8日に、mobilkom austriaはオーストリアのMVNOであるTele2を買収している。Tele2の顧客数は13.1万であるが、この買収手続きは2007年4Qに完了する見込みである。

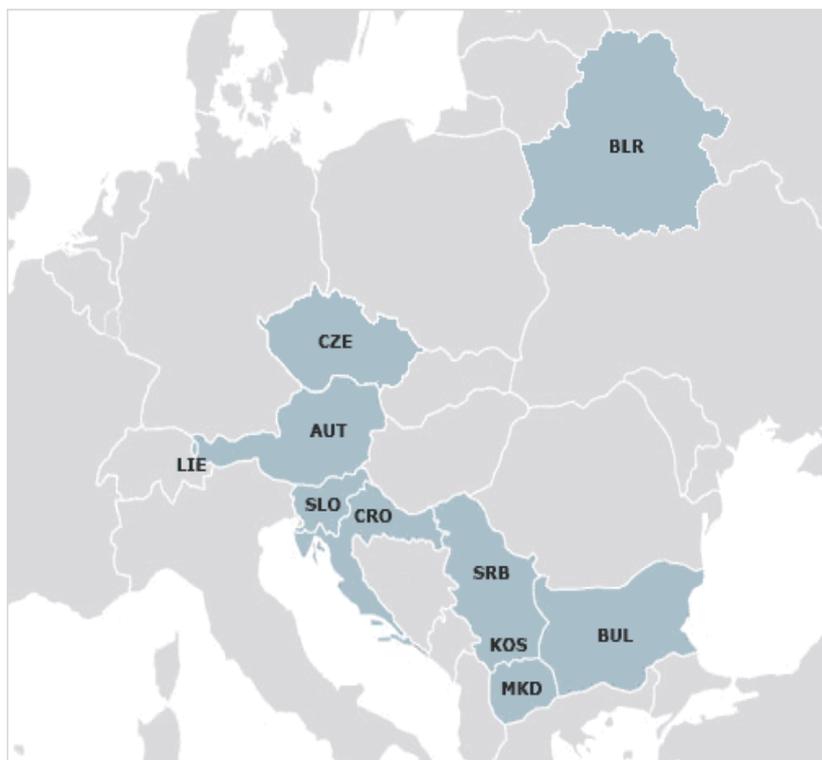
2008年1月16日に発表されたクリスマスセールを反映した2007年12月末のmobilkom austriaの加入者数は前年比9.1%増の396万で、マーケットシェアは40.3%と若干上昇している。

3 TAGの海外進出状況

TAGのホームページによれば、同グループの2007年10月末の海外進出先は図表2の通り、近隣の東欧・南欧の8つの国・地域にまたがっている。2007年10月以降、ベラルーシが加わることとなるが、地理的にはパッチワーク的な印象は否めない。

チェコを除く7つの国・地域では携帯電話事業を展開しているが、チェコでは「volny」というブランドで固定・インターネットサービスを提供しており、2006年末の加入者は148,200である。

■図表2 Telekom Austria Groupの進出国・地域



(出典：TAGホームページ)

2007年にTAGはセルビア及びマケドニアでの携帯電話事業に参入したが、2007年10月3日には7.3億EUR（1176億円）でCypriot SB Telecom Limitedの株式を取得している。同社はベラルーシ第2位の携帯電話事業者MDC（マーケットシェア：42%、加入者数：270万）の親会社であるが、TAGは2010年までに残りの株式30%を3.2億EUR（516億円）で取得可能なオプション契約も締結している。なお、ベラルーシの2007年6月末携帯普及率は62.8%であるが、現在、4つの携帯電話事業体が運営されている。2007年末のTAGの事業展開状況は図表3の通りである。

■図表3 TAGの事業展開状況

国名	事業体名	出資比率	事業内容等
オーストリア	mobilkom austria	100%	最大手携帯電話事業者。シェアは40%
ブルガリア	Mobiltel	100%	最大手携帯電話事業者。2005年7月に100%子会社化
クロアチア	Vipnet	100%	第2位の携帯電話事業者でシェアは43%。2004年に100%子会社化
スロベニア	Si.mobil	100%	1999年事業開始の第2位の携帯電話事業者。2006年5月に100%子会社化
リヒテンシュタイン	Mobilkom Liechtenstein	100%	2000年9月に事業開始。シェアは16.8%
マケドニア	VIP operator	NA	2007年9月に国内第3番目の携帯電話事業者として事業開始
セルビア	VIP mobile	NA	2007年7月に携帯電話事業を開始
ベラルーシ	MDC	70%	2007年10月に子会社化。第2位の携帯電話事業者でシェアは42%
チェコ	Telekom Austria Czech Republic	100%	volnyブランドの固定・インターネット事業者

(出典：TAG ホームページ)

4 TAGの財務状況

2007年11月14日に発表された2007年3QのTAGの財務状況は図表4の通りである。売上額は前年同期比3.6%増の12.77億EUR（2057億円）であったが、EBITDAは前年同期比5.4%減の5.21億EUR（839億円）に減少している。このEBITDAの減少は固定通信からの収入が低かったこととセルビア及びマケドニアの携帯電話事業開始費用が原因と分析している。同様に営業収益も前年同期比8.9%減の2.58億EUR（416億円）であるが、この原因は営業費用と携帯分野の減価償却費の増加としている。

一方、2007年1-9月の合計売上額は海外部門の好調から前年同期比2%増の36.3億EUR（5848億円）であった。しかしながら、2007年1-9月のEBITDAは前年同期比4.7%減の14.63億EUR（2357億円）で、同様に2007年1-9月の営業収益も前年同期比4.5%減の6.68億EUR（1076億円）に減少している。

2007年通期の見通しに関しては、順調な海外事業に加えて、2007年10月にグループ傘下となったベラルーシのMDCの業績が2007年4Qに加算されるため、前年比3%増の売上額を見込んでいるとのことである。

■図表4 TAGの連結財務状況

	3Q/2007	3Q/2006	前年比	1-9M/2007	1-9M/2006	前年比
連結売上額	1,277.1	1,232.3	3.6%	3,630.9	3,560.3	2.0%
固定	541.4	529.8	2.2%	1,585.6	1,584.0	0.1%
移動	805.3	772.9	4.2%	2,238.9	2,172.0	3.1%
エリミネーション	-69.6	-70.4	-1.1%	-193.6	1195.7	-1.1%
EBITDA	521.2	551.2	-5.4%	1,463.6	1,535.6	-4.7%
営業収益	257.8	282.9	-8.9%	668.0	699.6	-4.5%
純利益	173.7	213.6	-18.7%	451.5	498.5	-9.4%
資本支出	158.1	148.5	6.5%	534.8	421.4	26.9%

(出典：TAGホームページ、単位：百万EUR)

4-1 TAGの携帯事業

TAGの2007年3Qの携帯電話事業の連結財務状況は図表5の通りであるが、グループ全体の2007年9月末の携帯電話加入者（除くセルビア及びマケドニアの加入者）は1120万であり、2007年6月末と比較すると14.8%の増加となっている。

2007年1-9月の売上額は22.38億EUR（3605億円）で、前年同期比で3.1%の増加である。また、2007年3Qの売上額は8.05億EUR（1297億円）で、前年比4.2%の増加となっているが、ブルガリア、クロアチア及びスロベニアの事業が貢献している。

■図表5 TAGの携帯事業の連結財務状況

	3Q/2007	3Q/2006	前年比	1-9M/2007	1-9M/2006	前年比
連結売上額	805.3	772.9	4.2%	2,238.9	2,172.0	3.1%
EBITDA	339.0	351.7	-3.6%	919.6	931.5	-1.3%
営業収益	205.0	230.0	-10.9%	534.9	565.0	-5.3%

(出典：TAGホームページ、単位：百万EUR)

2007年12月末のオーストリアの携帯電話普及率は115.3%に達しているが、その理由は同一顧客が複数のSIMカードを用い、音声用とデータ用に使い分けていることが原因ではないかと分析されている。2007年9月末のmobilkom austriaの加入者は前年比9.2%増の390万であるが、データカードやUSBモデムの販売が好調であり、契約ベースの成長率は21%となっている。このデータカード販売の好調で、2007年9月末の売上額に占めるデータサービスの割合は27.5%までに増加している。

オーストリア、ブルガリア、クロアチア、スロベニア及びリヒテンシュタインにおけるTAGの携帯事業の展開状況は図表6の通りである。

■図表6 TAGのグループ携帯事業の展開状況

	mobilkom austria	Mobitel	Vipnet	Si.mobil	Mobilkom Liechtenstein
国名	オーストリア	ブルガリア	クロアチア	スロベニア	リヒテンシュタイン
4Q/2007 携帯普及率	118.3%	132.8%	114.9%	92.2%	84.1%
4Q/2007 市場シェア	40.3%	50.3%	43.0%	26.9%	18.4%
4Q/2007 市場ポジション	1位	1位	2位	2位	N/A
4Q/2007 加入者数	395.9万	509.8万	217.9万	49.3万	5,400
3Q/2007 加入者数	385.3万	481.4万	207.7万	47.9万	5,200
3Q/2007 売上額	4億2670万 EUR	1億7440万 EUR	1億6500万 EUR	4810万 EUR	500万EUR
3Q/2006 売上額	4億3580万 EUR	1億6120万 EUR	1億4500万 EUR	3730万 EUR	N/A
3Q/2007 月額ARPU	31.4EUR	10.4EUR	16.3EUR	24.9EUR	N/A
3Q/2006 月額ARPU	34.9EUR	11.4EUR	17.5EUR	22.5EUR	N/A

(出典 : TAG Results for the 1st Nine months 2007 & Christmas Sales)

前記図表4及び図表6の通り、TAGの連結売上額は前年比で増加しているが、本国オーストリアのmobilkom austriaは売上額及びARPUとも減少傾向にある。また、ブルガリアでマーケットシェア1位のMobitelも売上額は増加しているものの、ARPUは減少傾向にある。ARPUが増加しているのは携帯電話普及率で100%に達していないスロベニアだけあり、携帯電話普及率が100%を超過しているオーストリア、ブルガリア及びクロアチアの3ヶ国では減少傾向にある。

ブルガリアの携帯電話普及率が前年の97.2%から125.2% (3Q/2007) に急激に増加した理由は、複数のSIMカード利用と契約済未使用のSIMカードの増加によるものであると分析している。また、MobitelのARPUは減少したが、加入者増加でMOU (Minutes of Use) は前年比で30.8%も増加したため、ARPUの減少をoffsetしたとしている。

一方、オーストリアに関しては、**mobilkom austria**の2007年9月末の加入者は前年比**9.2%**増で増加しており、音声使用量そのものは増加したものの、料金の低下や着信料の値下げが**ARPU**の減少に影響したとしている。しかしながら、データ利用の加入者が**12.8%**増加し、データ**ARPU**は**26.9%**増加したため、平均**ARPU**の減少は前年比**10%**減に収まったとしている。

2007年10月15日、オーストリアの規制機関は携帯電話事業者間の統一着信料の値下げスケジュールを発表し、すべてのオーストリアの携帯電話事業者は2009年1月1日から着信料を**5.72cents** (9.21円) に値下げするよう要請している。**mobilkom austria**はこの要請を先取りする形で、着信料を2007年1月から**7.13cents** (11.49円) に、2007年7月からは**5.91cents** (9.52円) に値下げし、2008年1月から**5.72cents** (9.21円) に値下げすることを決定している。

このオーストリア国内の着信料の値下げに加えて、2007年7月に実施されたEUローミング料金の値下げも2007年下期以降には影響が出るはずである。特に**mobilkom austria**の場合はローミング収入への依存^(脚注)が高いとされており、2007年通期で携帯電話事業の前年比**3%**増の売上を確保するには、TAG自身が認めるベラルーシに加えて、2007年に携帯電話事業を開始したセルビア及びマケドニアの状況も重要となってくる。

5 TAGの今後の海外投資

TAGの中で、国内携帯電話市場で過半数のマーケットシェアを占めているのはブルガリアの**Mobiltel**だけである。オーストリア本国の**mobilkom austria**のマーケットシェアは**40.3%**である。**mobilkom austria**は**Vodafone**のパートナーシップ会社として、マーケティングや技術導入で協力しているものの、競争相手が**T-Mobile**や**One/Orange**であるため、急激なシェア拡大はすぐには期待できない。セルビアやマケドニアでも携帯事業を開始したが、いずれも第3番目の後発参入組であるため、事業基盤を固めるには今暫く時間がかかることは事実である。リヒテンシュタインは総人口がそもそも**3万5000**であり、マーケット的には大きな期待はできない。

TAGとしては、今回グループ入りするベラルーシのMDCに期待しているようであるが、ベラルーシの携帯電話市場にはCIS諸国で携帯電話事業を展開するロシアの**VimpelCom**も興味を抱いているとされている。隣国のチェコにはTAGとして固定・インターネット分野に参入しているが、チェコの携帯市場は**Telefonica O2**、**T-Mobile**及び**Vodafone**の3社が市場を**40:40:20**で占めており、新たにTAGが参入する機会は皆無に等しい。



(脚注) 欧州での携帯電話ローミング収入は年間で約**1兆2000**万円強と言われており、各携帯電話会社の平均ローミング収入は総収入の**5%**とされている。**mobilkom austria**の場合、ローミング収入は第5番目の収入源とされている。

TAGにとって、新たな携帯市場への参入が見込まれる東欧諸国にはスロバキア、コソボ、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ等がある。2006年12月、mobilkom austriaはボスニア・ヘルツェゴヴィナの第2番目の携帯事業者であるTelekom Srpskaの株式65%の取得競争でセルビアのTelekom Srbijaに負けており、2007年8月にはスロバキアのGSMライセンス取得でもTelefonicaに負けている。

しかしながら、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの携帯市場でシェア50%を超えているGSM BiHの親会社であるBH Telecomの民営化が2008年に予定されており、DTとともにmobilkom austriaも資本参加の有力候補と言われている。

2008年1月23日付けのTeleGeographyによれば、mobilkom austriaはウクライナの固定通信事業であるUkrtelecomの株式取得への入札を検討していることを明らかにしたようである。ウクライナ政府は2008年1月、Ukrtelecomの株式の67%までを売却することを発表しているが、ハンガリーのMagyar Telecom^(脚注)もUkrtelecomの株式取得に興味を示しているとのことである。Ukrtelecomは2007年11月に携帯市場に再参入し、ウクライナで最初の3G/W-CDMAを開始している。なお、ウクライナの2007年末の携帯電話加入者は5500万であり、普及率は119%である。

オーストリアは人口の98%がドイツ語を母国語としているが、国内には政府に認められた6つの少数民族が暮らしている。クロアチア系、ハンガリー系、チェコ系、スロバキア系、ロマ・シティ系及びスロベニア系であるが、所謂スラブ系民族と呼ばれる人達である。mobilkom austriaは「西欧と東欧の中間に位置し、また、スラブ系民族のメンタリティーに精通している」メリットを東欧展開の軸としているようであるが、今後の事業展開にあたってはT-Mobile、Telefonica及びOrangeに加えて、ベラルーシではロシアのVimpelComも競争相手となりそうである。

資金力のみで単純に比較すれば、mobilkom austriaがDT、FTやTelefonicaに対抗することは困難であろう。東欧系人民のメンタリティーに精通しているとは言え、それが海外での事業展開の成功の秘訣にはならない。しかしながら、mobilkom austriaは技術革新の進んだ会社であり、欧州で最初にUMTSやHSDPAを導入した携帯電話事業者の一つである。

新しい技術として、2007年9月に、オランダのNXP (Next eXPerience) セミコンダクター(旧フィリップスセミコンダクター)、ノルウェーNokia、ÖBB (Österreichische Bundesbahnen: オーストリア鉄道会社) や Wiener Linien (運送会社) と共同して、オーストリア国内へのNFC (Near-Field-Communication) 網導入を発表している。



^(脚注) 2008年1月4日付けのTeleGeographyによれば、Deutsche Telekomはハンガリーの子会社であるMagyar Telekomを介して、スロベニアのTelekom Slovenijeの民営化の入札に参加したが、2008年1月14日、スロベニア政府は英バイン・キャピタルを中心とするコンソーシウム及びアイルランドのスキプティを第一次入札で選考したと発表している。

2007年10月にはVodafoneの協力を得て、モバイルブロードバンド用の小型USBスティック「Vodafone Mobile Connect USB Stick 7.2」^(脚注)を導入している。また、EUの電気通信委員長が携帯電話向けデジタル放送規格として強く推奨している「DVB-H」を2008年には導入する計画をもっている。

今後、TAG/mobikom austiraが東欧諸国民のメンタリティー理解と技術イノベーションを武器に、T-MobileやTelefonicaに対抗して、東欧・南欧でどこまでその携帯事業を拡大していくか注目したい。

📖 執筆者コメント

オーストリアと言えば、すぐに、多くの人がウィーンやザルツブルグという音楽の都を思い浮かべると思う。しかしながら、今や携帯電話の競争はこの音楽の都にも否応もなく押し寄せている。ザルツブルグはモーツァルト生誕の地として有名であるが、古くは知名の語源である「塩の砦」として中世交易の中心として繁栄したと言われている。歴史に興味のある人はマリーアントワネットを輩出したハプスブルク・ロートリング家を中心とした旧オーストリア帝国を思い浮かべる人がいるかも知れない。

オーストリアは中央ヨーロッパの中心部に位置し、国境を接している国はドイツ、チェコ、スロバキア、ハンガリー、スロベニア、イタリア、スイス及びリヒテンシュタインの8ヶ国であり、昔から文化圏や経済圏が交わる十字路としての役割を果たしていると言われている。

オーストリアは、1995年にはEUに加盟し、また、1998年にはオーストリアの電気通信市場も自由化された。当初、固定系のライセンスを取得した事業者は66を数えたと言われているが、現在の携帯電話事業者数は4社である。

オーストリアは地理的な条件も相俟って、経済的にもEUの中で西欧と東欧の窓口的存在となっているが、東欧諸国が門戸を開放して以来、オーストリアの対東欧輸出額も急速に増加しており、オーストリアによる海外投資の約1/3は東欧向けと言われている。

2007年7月のEUにおけるローミング料金規制の導入に関して、一番声高に反対していた携帯電話事業者はVodafoneとmobikom austriaと言われていた。当初、mobikom austriaはローミング料金値下げの補填には国内料金の値上げも辞さないとのコメントを出しており、筆者が興味を抱いた事業者であった。mobikom austriaの状況を調べているうちに、同社が東欧に進出している事実を知り、それが今回の



^(脚注)「Vodafone Mobile Connect USB Stick 7.2」はモバイルブロードバンド用で現状、一番小型なUSBスティックであるが、HSDPA方式で7.2Mbps、HSUPA方式で1.4Mbpsまでの伝送速度が出るとされている。

レポート執筆の発端となった。

携帯電話の海外展開には資金力、技術力、マーケティング力に加えて、現地のローカル対応力も必要とされている。その意味でmobikom austriaの掲げる「メンタリティーへの理解」にも共感を覚えることができるが、現実として、どこまで通用するかは注目したい。

スイスの一寒門に過ぎなかったハプスブルグ・ロートリング家は、「戦争・侵略」ではなく、「婚姻政策」によりその領土を大幅に拡大していったと言われている。T-MobileやTelefonicaの海外展開に比較すると、TAGの東欧展開には一見、華々しさはない。しかしながら、「メンタリティー」を重視するという方針は、かつてのハプスブルク家が「婚姻政策」により領土を拡大させた過去に一脈を通ずるものがあるかも知れない。

📖 出典・参考文献

- Telekom Austria Groupホームページ
- TAG - The Results for first Nine months 2007
- TAG Christmas Sales Data
- KDDI総研 各国マーケット基礎情報 チェコ
- 在京オーストリア大使館ホームページ
- TeleGeography

【執筆者プロフィール】

氏名：恵木 真哲（えぎ まさのり）

所属：KDDI総研

専門：アジア・大洋州の通信市場に関する調査研究

最近の主なレポート：

「ブロードバンド整備計画を巡る豪州政府とTelstraの争いについて」（KDDI総研 R&A 2007年12月号）

E-mail：ma-egi@kddi.com